ヘブライ語聖書対訳シリーズ 24

エレミヤ書Ⅱ

18～35章

ミルトス・ヘブライ文化研究所編

ヘブライ語聖書対訳シリーズ

――刊行の言葉――

聖書は日本においても隠れたベストセラーとして，これまで幾多の邦訳聖書が刊行され，読み継がれてきた．さて，聖書というとき，原典はギリシア語で書かれた新約聖書と，ヘブライ語で書かれた旧約聖書（一部はアラム語）より成り立っている．その翻訳の歴史は，古くは聖フランシスコ・ザビエルが 1549 年に持参した邦訳『マタイ伝』の一部にさかのぼるといわれ，最近では 1987 年に新共同訳が完結した．先人たちの努力による，翻訳という大変な難事業を通して，聖書への道が我が国にも拓かれてきたのである．

ただし，聖書に限らず，一般の文学や古典にも当てはまることだが，翻訳を幾種類か読み比べるとき，だれもが戸惑う経験がある．それは，あたかも異なった原文から訳出されたかのような意味合いを持つ翻訳箇所に，しばしば出会うことである．しかし，いかに立派な翻訳であっても，翻訳が原典のもつニュアンスをすべて，また正確に伝えるのは不可能に近い．

すでに，紀元前 2 世紀に書かれた旧約聖書外典の『シラ書』が，次のように語っている．

「我々は，懸命に努力したのであるが，上手に翻訳されていない語句もあると思われるので，そのような箇所についてはどうかお許し願いたい．というのは，元来ヘブライ語で書かれているものを他の言語に翻訳すると，それは同じ意味合いを持たなくなってしまうからである．この書物だけではなく，律法および他の書物でさえも，いったん翻訳されると，原著に表現されているものと少なからず相違してくるのである」

したがって，熱心な読者がより深い理解を求めて，翻訳から原典に直接触れることを望むのは，しごく当然であろう．もちろん，原典への道は容易ではない．とりわけ，ヘブライ語のような馴染のうすい古典語で綴られた旧約聖書の場合，原典講読はごく少数の専門家のみに限られてきた．しかし近年，邦訳聖書の普及と聖書への関心が高まるのにつれて，一般の人々の間にも旧約聖書原典そのものに親しみたいとの要望が上がっている．

幸いにもユダヤ人によって再建された国，イスラエルにおいて，その言語も復活されたことは，言語学史上奇跡的な偉業と見られている．その結果，現代語から入って聖書ヘブライ語を身近なものとして学ぶことができるようになった．編者らはその恩恵に浴した一人一人である．

ここに，小社は，日本の聖書を愛する方々に，（そして必ずしもヘブライ語を正式に学んだことのない人も近づけるような）旧約聖書の原典への道を提供したく，原文の逐語訳を試みようと，『ヘブライ語聖書対訳シリーズ』を企画した次第である．

もとより，翻訳の場合と同様，逐語訳においても「唯一で決定版」というものはありえない．本書は日本初のインターリニア聖書でもあり，非学非才の編者は出来映えの甚だ理想に遠いことを承知している．これが一つの叩き台ともなり，さらにより良き類書の出現するのを期待したい．しばらくは，このささやかな試みが，聖書を愛読する方々の渇望をいやすのにいささかでも役立つならば，望外の幸せである．

終わりに，本書の企画に対して温かい理解を示し，「新共同訳聖書」の使用を快諾し，ヘブライ語原典 BIBLIA HEBRAICA STUTTGARTENSIA の使用許可の労を執って下さった日本聖書協会に対して，心からなる感謝の意を表したい．

ミルトス・ヘブライ文化研究所

目　次

刊行の言葉　1

本書の特長と使い方　4

発音について　6

文法用語略語表　8

脚注について　9

本文　13

解説　エレミヤ書について⑵　201

本書の特長と使い方

本書は，旧約聖書のヘブライ語原典と日本語逐語訳を並べたインターリニアの対訳聖書です．すなわち，原典の一語一語の下に日本語カナ式発音と逐語訳を付け，適宜に脚注をもって補い，さらに日本語聖書として「新共同訳」を本文欄外に載せました．

本書の編集方針は，読者としていわゆる専門研究者というより，一般の平信徒ならびに聖書を愛読する社会人を対象としました．したがって次の諸点に留意して，本書をご利用ください．

1. 本文　ヘブライ語の本文は，『ビブリア・ヘブライカ・シュトットガルテンシア BIBLIA HEBRAICA STUTTGARTENSIA 』（ドイツ聖書協会）を使用しました．BHS と略称されるこの本文は，底本にレニングラード写本を用い，旧約聖書の本文として信頼性の高いものです．

本文中に写本の違いで他の聖書と異なる箇所があります．しかし，原文テキストの校訂が本書のテーマではありませんので，その異同についての言及は最小限にとどめました．

2. 語順　ヘブライ語は，アラビア語と同じセム語族に属し，文字を右から左に綴ります．本文中は，日本語もそれにならって右から左に書くことに統一しました．（ただし脚注は通常どおり，左から右に書きました）

最初は読みづらいと思われるでしょうが，元来日本語もそのように綴られていたのですから，しばらくの間我慢していただければ，慣れることができるでしょう．

3. 発音　初学者でもヘブライ語原典を自分なりに読めるように，日本語カナ式発音表示を付けました．もちろん，正確な意味では日本語のカナで外国語の発音を表記することは不可能ですが，ヘブライ語の原典になじみ，やがて興味を持った場合の朗読の手がかりとして設けました．

読み方は，イスラエル国営放送の聖書朗読者の発音に準拠しました．別売の『聖書朗読ＣＤ』をお聞き下さい．（さらに詳しくは，本書の「発音について」を参照のこと）

4. 訳語　訳語は，限られたスペースの中で，簡明に原語の意味がくめるよう，直訳に近い語義を選び，しかも全体として日本語として読みやすいように工夫しました．

原語一語に対して訳語一語を対応させました．しかし，原語のニュアンスを一つの訳語に限定するのは無理な場合があります．したがって，本書の訳語が唯一で決定的なものと断定するものではなく，ほかにも可能性があることは申すまでもありません．適宜に脚注に「別訳」として掲げましたので，御参照下さい．

また，同一の原語はなるべく同一の訳語を付けることにしましたが，必ずしもこの原則を機械的に守ったわけではありません．

5. 文法　訳語の下に，簡単な文法的説明を付けました．ヘブライ語の知識がなくても，他の外国語に準じて，品詞や性，数の区別を知るだけでも，原典の理解に役立つでしょう．（詳しくは，文法用語略語表を御覧下さい）

発音について

ヘブライ文字と記号

ヘブライ語聖書を見ると，横に単語が並んでいますが（右から左に読む），単語を構成する文字にいろいろの符合が付いています．

ヘブライ語の文字は 22 字より成り，これらはすべて子音文字です．母音は，「ニクダー」と呼ばれる記号を，文字の下ないしは上に付けて表示します．この母音記号の他に，「タアメー・ハミクラー」という符号があります．これは，ユダヤ教において聖書の読み方を正しく伝えるための記号で，朗読のための　1）音符の役割，2）アクセントの位置表示，3）句読点の役割，として働いています．聖書の構文を理解する上で，キー・ポイントとなります．詳しくは『今日からわかる聖書ヘブライ語』（ミルトス刊）を参照して下さい．

発音表記について

本書は，発音について現代イスラエルで標準的に認められている読み方に従いました．ヘブライ語を修得している人には発音表示は必要ありませんが，より多くの人にヘブライ語の読み方に馴染んでいただくために，カナ表記を付けました．表記のルールは次のとおりです．

1）原則として，発音はカタカナで表記する．

2）ただし，次の子音は，ひらがなで表記する．

注意：発音は右から左に読む

ל（らメッド）　לֵב　ヴれ　　cf.　רַב　ヴラ

ח（ヘット）　חַג　グは　　כ（はフ）　לְכוּ　ーふれ

3）［si］の音は「スィ」で表記する．

סִיר	cf.	שִׁיר
ルーィス		ルーシ

4）［v］の音は「ヴ」で表記する．

טוֹב	וְדֶרֶךְ
ヴト	ふレデェヴ

5）子音の **ד**，**ט**，**ת** が語尾に来たとき，「ド」「ト」と表記する．

דָּוִד	מִשְׁפָּט
ドィヴダ	トッパュシミ

単語の中にあって母音を伴わないとき，「ドゥ」「トゥ」とする．

מִדְבָּר	הִתְפַּלֵּל
ルバゥドミ	るれパゥトヒ

6）強ダゲッシュは本来，子音を重ねて発音することを意味するが，カタカナでその読みを表わすのは難しいので簡略化する．

母音の長短について

文法上は，母音記号に長短の区別があるが，現代イスラエルの発音ではその区別はほとんど認められない．

むしろアクセントのある母音（すなわち，タアメ・ハミクラーが付いている文字）を長めに読む傾向があり，または，促音「ッ」として読む人もある．音の長さは，朗読する人によって微妙に違うので，カナ表示の完全な法則化は出来ない．長音の記号「ー」は，一つの目やすと考えていただきたい．

文法用語略語表

1. 品詞	固	固有名詞	接	接続詞
	代	代名詞	冠	冠詞
	形	形容詞	間	間投詞
	副	副詞	関	関係詞
	疑	疑問詞	前	前置詞
	数	数詞	尾	接尾辞
2. 数と性	単	単数	男	男性
	複	複数	女	女性
	双	双数		
3. 動詞の態	パ	パアル態	ヒ	ヒフイル態
	ニ	ニフアル態	フ	フファル態
	ピ	ピエル態	ト	ヒトパエル態
	プ	プアル態		
4. 動詞の時制	完	完了形	分	分詞
	未	未完了形	受分	分詞受動態
	命	命令形	不	不定詞
	指	指示形	倒	倒置のヴァヴ
	願	願望形	長	長形の命令形
5. その他	連	連語形	強	強調の語尾
	停	停止形	方	方向を示す語尾の ה

脚注について

原則として，脚注は次のような箇所に付けた.

1. 動詞の語根（ショーレシュ）が容易に見分けにくい箇所.
   （例）מְרֵעִים=√ רעע　　√の次の רעע がショーレシュ
2. 別 訳語が他にも考えられる箇所.
   （例）עֹז ＝別「砦」　　本文中の訳語は「力」
3. ＜　動詞や名詞などで，活用したり，接尾辞などが付いて，基本形が見分けにくい箇所.
   （例）בִּישׁוּעָתֶךָ＜ יְשׁוּעָה＝別「勝利」
4. その他簡単な歴史的，聖書知識的な解説を要する箇所.

略記号の意味

別　別訳，本文の単語に示した訳以外の意味.
√　語根，特に語根が見分けにくいもの.
＜　基本形，動詞や名詞で活用する前の形のこと.
「　」　訳語.
cf.　類語，反対語，また聖書の箇所の参照.
‘　’　直訳だけでは分かりにくい箇所の意訳.
（　）　補足的説明.
ⓐⓑ　訳語や語根のとらえ方に二つ以上の意見がある場合.
ⓚ　ケティブ，マソラー本文に書かれているままの綴り.
ⓟ　ケレー，マソラーの学者が，欄外に口伝の読み方を記したもの.
★　本文の読みの部分に★が付いている場合は，本文に書かれている綴りのままに読まずに，脚注のⓟにしたがって読んでいる.
Ges　ゲゼニウス・ヘブライ語文法書
(A.E.COWLEY, GESENIUS' HEBREW GRAMMAR,
AS EDITED AND ENLARGED BY E. KAUTZSCH, OXFORD)

エレミヤ書Ⅱ

18

1 הַדָּבָר֙ אֲשֶׁר־ הָיָה ירְמְיָ֔הוּ מֵאֵ֥ת
ルァヴダハ ルェシア ーヤハ るエ トッエメ
葉言 のろこと～ たっあ に ラかフヤメルイ
単男・冠 関 単男3完パ 前 前・前 ヤミレエ
男固

יְהוָ֖ה לֵאמֹֽר׃ 2 קוּם וְיָרַדְתָּ בֵּ֣ית
イナドア ルーモれ ムク ータゥドラヤェヴ トーベ
主 てっ言と～ て立はたなあ れ下はたなあてしそ 家
固 不パ・前 単男2命パ 単男2完パ・倒 連単男

הַיּוֹצֵ֑ר וְשָׁמָּה֙ אַשְׁמִיעֲךָ֔ אֶת־ דְּבָרָ֖י׃
ルェツヨハ マーャシェヴ ーはアミュシア トッエ イラァヴデ
の工陶 へこそてしそ るせか聞にたなあは私 を 葉言の私
単男分パ・冠 方・副・接 尾・単1未ヒ 前 停尾・複男

3 וָאֵרֵ֣ד בֵּ֣ית הַיּוֹצֵ֑ר וְהִנֵּה־ עֹשֶׂ֥ה
ドッレエァヴ トーベ ルェツヨハ ネヒェヴ★ ーフ ーセオ
たっ下は私てしそ 家 の工陶 よ見とるす は彼 るいてっな行
単1未パ・倒 連単男 単男分パ・冠 間・接 代 単男分パ

מְלָאכָ֥ה עַל־ הָאָבְנָֽיִם׃ 4 וְנִשְׁחַ֣ת הַכְּלִי֮ אֲשֶׁר
ーはらメ るア ムイナヴオハ トッはュシニェヴ ーりケハ ルェシア
を業作 で上の ろくろ るれさ壊てしそ は器 のろこと～
単女 前 停双男・冠 単男3完ニ・倒 単男・冠 関

הוּא עֹשֶׂה בַּחֹמֶר בְּיַד הַיּוֹצֵר וְשָׁב
ーフ ーセオ ルメほバ ドッヤベ ルェツヨハ ヴャシェヴ
が彼 る作 で土粘 で手 の工陶 るす～び再は彼てしそ
代 単男分パ 単男・冠前 連単女・前 単男分パ・冠 単男3完パ・倒

וַיַּעֲשֵׂהוּ֙ כְּלִ֣י אַחֵ֔ר כַּאֲשֶׁר֙ יָשַׁ֣ר בְּעֵינֵ֖י
フーセアヤァヴ ーりケ ルへア ルェシアカ ルャシヤ ーネーエベ
たっ作をれそてしそ を器 の他 にうよ～ たっだぐ直っ真 に目両
尾・単男3未パ・倒 単男 単男形 関・前 単男3完パ 連双女・前

הַיּוֹצֵ֑ר לַעֲשׂ֥וֹת׃ 5 וַיְהִי֙ דְּבַר־ יְהוָ֔ה אֵלַ֖י
ルェツヨハ トッソアら ーヒィァヴ ルァヴデ イナドア イらエ
の工陶 がとこる作 たっあ～てしそ が葉言 の主 に私
単男分パ・冠 不パ・前 単男3未パ・倒 連単男 固 尾・前

---

2. וְיָרַדְתָּ ＝直前の動詞 קוּם（命令形）を受けて，ヴァヴ倒置の動詞においては命令の意味が継承される．

הַיּוֹצֵר ＝分詞の名詞的用法，原意は「造る者」．

3. וָאֵרֵד < יָרַד

וְהִנֵּה־עֹשֶׂה ㊐ , והנהו ㊑

הָאָבְנָיִם ＝cf. אֶבֶן「石」

4. וְנִשְׁחַת ＝√ שחת

וַיַּעֲשֵׂהוּ < עָשָׂה

יָשַׁר בְּעֵינֵי הַיּוֹצֵר ＝‘陶工の目にかなう’の意

18

陶工の手中にある粘土

1 主からエレミヤに臨んだ言葉。2「立って、陶工の家に下って行け。そこでわたしの言葉をあなたに聞かせよう。」3 わたしは陶工の家に下って行った。彼はろくろを使って仕事をしていた。4 陶工は粘土で一つの器を作っても、気に入らなければ自分の手で壊し、それを作り直すのであった。5 そのとき主の言葉がわたしに臨んだ。6「イスラ

לֵאמֹר׃ 6 הֲכַיּוֹצֵר הַזֶּה לֹא־ אוּכַל לַעֲשׂוֹת
ルーモれ ルェツヨはハ ゼハ ーろ るはウ トッソアら
てっ言と～ か～にうよの工陶 のこ ーに私 いなきでは はとこうな行
不パ・前 単男分パ・冠前・疑 代・冠 副 単1未パ 不パ・前

לָכֶם בֵּית יִשְׂרָאֵל נְאֻם־ יְהוָה הִנֵּה כַחֹמֶר
ムへら トーベ るエラスイ ムウネ イナドア ーネヒ ルメほは
に達たなあ よ家 のルエラスイ げ告みの **主** よ見 にうよの土粘
代・前 連単男 男固 連単男 固 間 単男・冠前

בְּיַד הַיּוֹצֵר כֵּן־ אַתֶּם בְּיָדִי בֵּית
ドッヤベ ルェツヨハ ンケ ムテア ィデヤベ トーベ
の中の手 の工陶 にうよのこ は達たなあ に中の手の私 よ家
連単女・前 単男分パ・冠 副 代 尾・単女・前 連単男

יִשְׂרָאֵל׃ 7 רֶגַע אֲדַבֵּר עַל־ גּוֹי וְעַל־
るエラスイ ガレ ルベダア るア ゴイ るアベ
のルエラスイ 間瞬 る語が私 てし対に 族民 てし対に～てしそ
男固 単男 単1未ピ 前 単男 前・接

מַמְלָכָה לִנְתוֹשׁ וְלִנְתוֹץ וּלְהַאֲבִיד׃
ーはらムマ ュシットンり ツットンりェヴ ドィヴアハるウ
国王 にめたく抜き引 にめたす壊てしそ にめたすや絶てしそ
単女 不パ・前 不パ・前・接 不ヒ・前・接

8 וְשָׁב הַגּוֹי הַהוּא מֵרָעָתוֹ אֲשֶׁר דִּבַּרְתִּי
ヴャシェヴ イゴハ ーフハ ートアラメ ルェシア ィテルバィデ
る帰しかし は族民 のそ らか悪のそ のろこと～ たっ語が私
単男3完パ・倒 単男・冠 代・冠 尾・単女・前 関 単1完ピ

עָלָיו וְנִחַמְתִּי עַל־ הָרָעָה אֲשֶׁר חָשַׁבְתִּי
ヴらア ーィテムはニェヴ るア ーアラハ ルェシア ィテヴャシは
てし対にれそ す直い思は私とるす ていつに い災 のろこと～ たえ考が私
尾・前 単1完ニ・倒 前 単女・冠 関 単1完パ

לַעֲשׂוֹת לוֹ׃ 9 וְרֶגַע אֲדַבֵּר עַל־ גּוֹי
トッソアら ーろ ガレェヴ るア イゴ
をとこうな行 にれそ 間瞬てしそ てし対に 族民
不パ・前 尾・前 単男・接 前 単男

エルの家よ、この陶工がしたように、わたしもお前たちに対してなしえないと言うのか、と主は言われる。見よ、粘土が陶工の手の中にあるように、イスラエルの家よ、お前たちはわたしの手の中にある。7 あるとき、わたしは一つの民や王国を断罪して、抜き、壊し、滅ぼすが、8 もし、断罪したその民が、悪を悔いるならば、わたしはその民に災いをくだそうとしたことを思いとどまる。9 またあるときは、一つの民や王国を建て、また植

---

7. לִנְתוֹשׁ וְלִנְתוֹץ וּלְהַאֲבִיד =cf.エレ1:10.

8. וְשָׁב =別「もし帰るなら」(＝新共同訳)

עָלָיו , לוֹ =接尾辞(3男単)は הַגּוֹי「民族」を指す.

וְעַל־ מַמְלָכָה לִבְנֹת וְלִנְטֹעַ׃
るアェヴ ーはらムマ トッノヴり アトンりェヴ
てし対に〜てしそ 国王 にめたるて建 にめたるえ植
前・接 単女 不パ・前 不パ・前

10 וְעָשָׂה הָרַעֹה בְּעֵינַי לְבִלְתִּי שְׁמֹעַ
ーサアェヴ ーラハ★ イナエベ ィテるィヴれ アモェシ
うな行がれそしかし を悪 に目両の私 くなとこく聞
単男3完パ・倒 単男・冠 尾・双女・前 前・前 不パ

בְּקוֹלִי וְנִחַמְתִּי עַל־ הַטּוֹבָה אֲשֶׁר אָמַרְתִּי
ーりコベ ーィテムはニェヴ るア ーァヴトハ ルェシア ィテルマア
に声の私 す直い思は私とるす ていつに とこい良 のろこと〜 たっ言が私
尾・単男・前 単1完ニ・倒 前 単女・冠 関 単1完パ

לְהֵיטִיב אוֹתוֹ׃ 11 וְעַתָּה אֱמֹר־ נָא אֶל־
ヴーィテへれ ートオ ータアェヴ ルモエ ーナ るエ
にめたるすく良 をれそ 今てしそ え言はたなあ かうど に
不ヒ・前 尾・前 副・接 単男2命パ 間 前

אִישׁ־ יְהוּדָה וְעַל־ יוֹשְׁבֵי יְרוּשָׁלִַם
ュシーイ ーダフェイ るアェヴ ーェヴェシヨ ムイらャシルェイ
人 のダユ に上の〜てしそ 達者るいでん住 のムレサルエ
連単男 男固 前・接 連複男分パ 固

לֵאמֹר כֹּה אָמַר יְהוָה הִנֵּה אָנֹכִי יוֹצֵר
ルーモれ ーコ ルマア イナドア ネヒ ーひノア ルェツヨ
てっ言と〜 にうよのこ たっ言 は**主** よ見 は私 る造
不パ・前 副 単男3完パ 固 間 代 単男分パ

עֲלֵיכֶם רָעָה וְחֹשֵׁב עֲלֵיכֶם מַחֲשָׁבָה
ムへれア ーアラ ヴェシほェヴ ムへれア ーァヴャシはマ
に上の達たなあ をい災 るえ考てしそ に上の達たなあ をえ考
尾・前 単女 単男分パ・接 尾・前 単女

שׁוּבוּ נָא אִישׁ מִדַּרְכּוֹ הָרָעָה
ーヴーュシ ーナ ュシーイ ーコルダミ ーアラハ
れ帰は達たなあ かうど が々各 らか道の彼 い悪
複男2命パ 間 単男 尾・単女・前 単女形・冠

えると約束するが、10わたしの目に悪とされることを行い、わたしの声に聞き従わないなら、彼らに幸いを与えようとしたことを思い直す。」

11今、ユダの人々とエルサレムの住民に言うがよい。「主はこう言われる。見よ、わたしはお前たちに災いを備え、災いを計画している。お前たちは皆、悪の

---

9. לִבְנֹת וְלִנְטֹעַ =cf.エレ1:10.

10. וְעָשָׂה =別「もしそれが行なうなら」(=新共同訳)

Ⓢ הרעה , Ⓟ הָרַע

לְהֵיטִיב =√ יטב

11. יוֹשְׁבֵי =分詞の名詞的用法.

מַחֲשָׁבָה =√ חשב , cf. חָשַׁב「考える」

אִישׁ =原意は「人」

וְהֵיטִיבוּ　דַרְכֵיכֶם　וּמַעַלְלֵיכֶם׃
ーヴーィテヘェヴ　ムヘヘルダ　ムへれるアマウ
ろしく良は達たなあてしそ　をな道の達たなあ　をいな行の達たなあてしそ
複男2命ヒ・接　尾・複女　尾・複男・接

12 וְאָמְרוּ　נוֹאָשׁ　כִּי־　אַחֲרֵי　מַחְשְׁבוֹתֵינוּ׃
ールメアェヴ　ュシッアノ　ーキ　ーレはア　ヌーテォヴェシふマ
う言はら彼てしそ　だ嫌　らか〜らなぜな　に後の　え考の達私
複3完パ・倒　単男分ニ　接　前　尾・複女

נֵלֵךְ　וְאִישׁ　שְׁרִרוּת　לִבּוֹ־　הָרָע　נַעֲשֶׂה׃
ふれネ　ュシーイェヴ　トールリェシ　ーボり　ーラハ　ーセアナ
く行は達私　々各てしそ　をさな頑　の心のそ　い悪　うな行は達私
複1未パ　単男・接　連単女　尾・単男　単男形・冠　複1未パ

13 לָכֵן　כֹּה　אָמַר　יְהוָה
ンへら　ーコ　ルマア　イナドア
に故れそ　にうよのこ　たっ言　は**主**
副・前　副　単男3完パ　固

שַׁאֲלוּ־　נָא　בַגּוֹיִם
ーるアャシ　ーナ　ムーイゴバ
ろめ求は達たなあ　かうど　にちうの族民諸
複男2命パ　間　複男・冠前

מִי　שָׁמַע　כָּאֵלֶּה
ーミ　ーマャシ　れエカ
か〜が誰　たい聞　なうよのられこ
疑　単男3完パ　代・前

שַׁעֲרֶרֶת　עָשְׂתָה　מְאֹד
トーリルアャシ　ータセア　ドッオメ
を事るすとっぞ　たっな行　に常非
単女　単女3完パ　副

בְּתוּלַת　יִשְׂרָאֵל׃
トッらゥトベ　るエラスイ
が女処　のルエラスイ
連単女　男固

道から立ち帰り、お前たちの道と行いを正せ。」
12 彼らは言った。「それは無駄です。我々は我々の思いどおりにし、おのおのかたくなな悪い心のままにふるまいたいのだから。」

13 それゆえ、主はこう言われる。
「国々に尋ねて見よ。
誰がこのようなことを聞いたであろうか。
おとめイスラエルはおぞましいことをした。

---

12. נוֹאָשׁ =√ יאש，原意は「諦める」
נֵלֵךְ < הָלַךְ

13. כָּאֵלֶּה ＝‘これらのような事を’の意.

14 הֲיַעֲזֹ֥ב מִצּ֖וּר שָׂדָ֑י
ヴゾアヤハ ルーツミ イダサ
かるれ離 らか岩 の野
単男3未パ・疑 連単男・前 単男

שֶׁ֣לֶג לְבָנ֔וֹן
グれェシ ンノァヴれ
は雪 のンノバレ
連単男 固

אִם־ יִנָּת֥שׁוּ
ムイ ーュシテナイ
かの～ るれか抜き引
接 複男3未ニ

מַ֖יִם זָרִ֑ים קָרִ֖ים נוֹזְלִֽים׃
ムイマ ムーリザ ムーリカ ムーりゼノ
が水 の国外 いた冷 るいてれ流
双男 複男形 複男形 複男分パ

14 シャダイの岩壁から
レバノンの雪が消え去るだろうか。
遠くから流れる冷たい水が涸れることがあろうか。

15 כִּי־ שְׁכֵחֻנִי עַמִּי
ーキ ニーふへェシ ーミア
ら か～らなぜな たれ忘を私 は民の私
接 尾・複3完パ 尾・単男

לַשָּׁוְא יְקַטֵּרוּ
ヴャシら ールーテカェイ
くし虚 くたを香
単男・冠前 停複男3未ピ

וַיַּכְשִׁלוּם בְּדַרְכֵיהֶם׳
ムーるシふヤァヴ ムへヘルダベ
たせか躓をら彼てしそ で々道のら彼
尾・複男3未ヒ・倒 尾・複女・前

שְׁבִילֵי עוֹלָם
ムらオ ーれィヴェシ
の昔 道小
単男 連複男

15 しかし、わたしの民はわたしを忘れ
むなしいものに香をたいた。
彼らは自分たちの道、昔からの道につまずき

---

14. שָׂדָי = שָׂדֶה の古形.
אִם =疑問辞 הֲ と併用される二重疑問(Ges §150-c).

15. שְׁכֵחֻנִי , יְקַטֵּרוּ , וַיַּכְשִׁלוּם =主語は עַמִּי (集合名詞).